三鷹市立第　中学校　令和8年度 【技術・家庭】 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	〈技術〉 ○習った知識を生かす時間を設け、設計をし、自己の問題を解決しようとする姿勢が見られた。 〈家庭〉 ○生徒の実生活に基づいた発問を増やすことで、興味・関心をもって授業に取り組む姿勢が見られた。	〈技術〉 ○現状・課題 学習意欲は高いが、既習事項の定着が不十分な部分があるため、思考・判断・表現につながりにくい部分がある。 〈家庭〉 ○現状・課題 学習意欲は非常に高く、基本的な知識が身についている生徒が多い。授業で学んだ内容を生活に生かそうとする認識はまだ低い部分がある。	〈技術〉 ○前時の復習を行い、反復することで既習事項の定着につなげる。 ◎作業の合間でグループワークを活用し、他者と意見交換や認め合いを行い、学び合いを深める。 〈家庭〉 ○実物教材や実践的な内容を取り入れ、自分の生活への結びつきを実感できるようにする。 ◎自分自身の食生活の中の課題を見つけ、グループワークなどを通して多様な考えに触れながら課題解決できるような活動を取り入れる。 〈共通〉 ◎小中一貫カリキュラムの「地域との連携の輪」を活用して、生徒の豊かな人間性と社会性を育む。
第2学年	〈技術〉 ○ワークシートに話した内容をメモし、グループワークや作業に生かす姿勢がみられた。 〈家庭〉 ○実生活の中で学習した内容が活かされている場面を感じながら、学習の必要性を感じることができた。	〈技術〉 ○現状・課題 コツコツ取り組むことができる生徒が多い。しかし、実技を行うにあたって、やってみようという気持ちはあるものの改善する方法に困り、がむしゃらにやっている様子がみられる。 〈家庭〉 ○現状・課題 実習への意欲が高く、積極的に取り組む姿が見られるが、内容によっては興味・関心が低い分野もある。自分の生活にどのように生かすかを自分の言葉でうまく表現できない様子が見られる。	〈技術〉 ○つまずいているところの振り返りをして、改善方法を考える時間を設ける。 ◎PDCAサイクルを自然と身につけられるよう、課題の設定、実行、確認、改善をワークシート等に書かせ、視覚的に感じられるようにする。 〈家庭〉 ○実物教材や動画などの視覚教材、実践的な活動を取り入れて、生徒の興味・関心を引き付ける。 ◎被服の分野から、環境問題や社会問題と結び付け、身近な話題の中に課題を見出す時間を設け、自分の生活をこれからどのようにつくりあげていくのかを自分ごととして考えられるようにする。 〈共通〉 ◎小中一貫カリキュラムの「地域との連携の輪」を活用して、生徒の豊かな人間性と社会性を育む。
第3学年	〈技術〉 ○既習事項を自ら復習し、プログラムを組む授業に生かすことができた。 〈家庭〉 ○座学・実習どちらにおいても、復習の時間を十分にとることで、成功体験を増やすことができた。	〈技術〉 ○現状・課題 隔週での授業なので１回の授業の集中力の差で理解度が変化している。プログラムを組むなど個人作業も多くなってくるので、集中力を維持させる環境づくりが必要である。 〈家庭〉 ○現状・課題 基本的な知識が定着しており、深い思考ができているが、自分の考えや意見を意欲的に発表する生徒が少ない。	〈技術〉 ○プログラムがうまくできず、集中が途切れてしまう生徒に対して、既習事項を活用し、ワークシートで整理させる。 ◎１時間プログラムをずっとやらせるのではなく、周りとの共有の時間やブレイクタイムを設け、別の作業をさせることで集中力を維持させる。 〈家庭〉 ○グループ活動を多く取り入れ、自分の考えを他者に共有する機会を設ける。 ◎実際に幼児と関わるシチュエーションを想定するなど実践的な活動を取り入れ、保育や家計管理等、将来の生活を見据え、人生について見通しをもって考えられるようにする。 〈共通〉 ◎小中一貫カリキュラムの「地域との連携の輪」を活用して、生徒の豊かな人間性と社会性を育む。